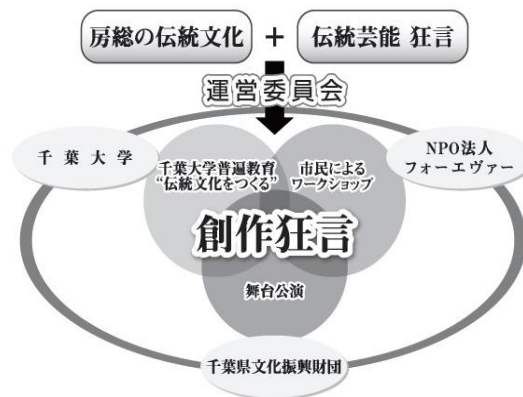


「見る、知る、伝える千葉～創作狂言～」とは ～古くて新しい伝統文化への取組み～

創作狂言は、房総に伝えられてきた民話や伝承をもとに和泉流狂言師の小笠原由祠（おがさわらただし）、千葉大学、県民で新たに創り上げてきた狂言です。

千葉大学、NPO 法人フォーエヴァー、公益財団法人千葉県文化振興財団と小笠原由祠で運営委員会をつくり運営を行っています。

これまでに「千葉笑い（千葉市）」「羽衣伝承（千葉市）」「鬼来迎（横芝光町）」「ヤマトタケル伝承（千葉県広域）」「八幡の藪知らず（市川市）」などを題材に狂言を創作し、上演してきました。古き良き文化を受け継ぎながら、団体の枠を超えた取組みとして発信しています。



「創作狂言 里見八犬伝」は、読本作家 曲亭（滝沢）馬琴によって著された『南総里見八犬伝』を原作としたシリーズとして上演しています。今回は、シリーズ最初の物語を「創作狂言 里見八犬伝 其ノ零 再演（エピソードゼロ ニューバージョン）」としてリニューアルしました。

- [参考] 平成 28 年度「里見八犬伝 其ノ零（エピソードゼロ）」
平成 29 年度「其ノ壱（エピソードワン）」
平成 30 年度「其ノ弐（エピソードツー）」
令和元年度「其ノ参（エピソードスリー）」

『南総里見八犬伝』について

この物語の主題は、「勸善懲悪（かんぜんちやうあく）」「因果応報（いんがおうほう）」です。室町時代の千葉県房総半島を舞台に書かれたこの作品は、当時から大変な人気を博しました。悪女玉梓の呪いにより、犬である八房と結婚することとなった里見家の姫・伏姫。やがて彼女は身ごもりませんが、彼女の腹からは「仁、義、礼、智、忠、信、孝、悌」とそれぞれ刻まれた八つの玉が出てきます。各地に散らばって数年後、それぞれの文字が刻まれた玉を持つ八人が集結し、世にはびこる悪者たちを倒してゆきます。そしてこの壮大な伝奇ロマン小説は全 106 巻にも及びます。

今回の創作狂言では、合戦に敗れ落ち延びた里見義実のその後、愛犬八房と伏姫の行きつく先には何が・・・“ウィズコロナ時代”ならではの演出で再演します。

千葉大学の取組み

千葉大学の学生は普遍教育「伝統文化をつくる」の授業の中で、これまで創ってきた狂言の舞台制作について学び、その伝統を受け継ぎつつ、学生ならではの視点から新たなアイデアを盛り込み、台本作り、小道具作り、展示物・プログラム作成、狂言講座への参加などを行っています。

(今年度はメディア授業となっていますが、夏休みには会場である千葉県文化会館で十分な感染対策を講じての学外実践活動を行いました。)



NPO法人フォーエヴァーの取組み

NPO法人フォーエヴァーは、千葉に芸術文化を根付かせるために活動している団体です。

様々な公演運営のノウハウやネットワークを活用し、県民の公演参加や指導者、千葉大生のサポートなど、全体を通して運営を支えています。

おがさわら ただし

小笠原 由禰 (小笠原匡改め)



能楽師狂言方和泉流 公益社団法人能楽協会会員
日本能楽会会員 重要無形文化財総合指定保持者

1965年生まれ。初世 野村 萬(人間国宝)、故8世 野村万蔵、9世 野村万蔵に師事。

狂言の大曲「奈須与市語」「三番叟」「釣狐」「金岡」「花子」を披く。2006年より「見る・知る・伝える千葉～創作狂言～」をプロデュース、毎年千葉県の神話・民話・風習を創作狂言に劇作・演出。NHK大河ドラマ「義経」、金曜時代劇「出雲の阿国」芸能指導、朝の連続ドラマ小説「カーネーション」「ごちそうさん」所作指導。2012年より桃山学院大学地域連携共同研究

プロジェクト「中近世の日本とイタリアにおける仮面喜劇の生成発展と現代的実践について」にて、毎年ヴェネツィア大学で狂言とイタリア伝統仮面劇「コンメディア・デッラルテ」のシンポジウム、ワークショップ、公演を行う。2016年よりパリ日本文化会館にて年3回「伝統の継承」を企画プロデュース。

現在、萬狂言関西支部代表、千葉大学客員教授。ホームページ <http://atelier-oga.com/>

《事業概要》

- 1 事業名 見る、知る、伝える千葉
創作狂言「里見八犬伝 其ノ零 再演(エピソードゼロ ニューバージョン)」
- 2 公演 令和2年12月5日(土) 14時00分開演
千葉県文化会館 大ホール
全席自由 2,100円 学生 1,000円
- 3 内容 第一部 狂言「盆山(ぼんさん)」
第二部 創作狂言「里見八犬伝 其ノ零 再演(エピソードゼロ ニューバージョン)」
- 4 出演 小笠原由禰、山下浩一郎、青山郁彦、TAKAKO、加藤充華
若菜の会、千葉大生
- 5 プレイガイド
千葉県文化会館 043-222-0201
千葉県東総文化会館 0479-64-2001
インターネット予約 <http://www.cbs.or.jp/>
- 6 主催 公益財団法人千葉県文化振興財団 043-222-0077
- 7 後援 千葉県、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会
館山市教育委員会、南房総市教育委員会
- 8 運営 見る、知る、伝える千葉～創作狂言～運営委員会
- 9 助成 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会

【参考】

※今年度は、新型コロナウイルスの影響により県民参加の狂言体験講座の中止や千葉大学授業での取り組み方の変更が生じています。以下、参考としてこれまでの取り組み状況を紹介します。

■ 狂言体験講座

※今年度の講座は中止としています。

公募により集まった受講生が狂言体験講座を経て、創作狂言公演に出演します。講座では基本となる発声やすり足など狂言のいろはから学び、セリフの言いまわしや所作を習得し、公演の出演者としての技術を身につけることができます。

公演では、衣装を身につけ、狂言師と共演します。



<昨年度の講座の様相>

■ 令和元年度までの千葉大学（伝統文化をつくる）の授業について

※令和2年度はメディア授業の為、例年とは異なった体制で行っています。以下に、これまでの取り組みを紹介します。

□授業では、学生たちは、舞台・道具・展示・広報の4つの班に分かれて活動を行っています。

□それぞれの班の活動内容を含む学生からのコメントを紹介します。

舞台班

私たち舞台班は、練習やワークショップを通して本番の舞台を目指します。その特色は何と言っても県民の皆様と共に活動するという事です。毎年千葉大生と県民の皆様は小笠原先生の独創的なアイデアと向き合い、協力して舞台に立ちます。昨年は本番時にアクロバットな動きを取り入れました。今年も新しいアイデアで盛り上げますので、ぜひ様々な方に観ていただきたいと思っています。



展示班

私たち展示班では、公演当日に会場で配布されるプログラムの作成と、ロビーに設ける展示パネルの文章作成、内容のレイアウトデザインを行っています。今回の公演について、そして、千葉と里見八犬伝のつながりについて、楽しく知っていただけるよう、一同頑張っていきます。また、当日は私たちが来場された方に直接、内容についての解説を行わせていただきたいと思っておりますので、お気軽にお声かけください。



道具班

私たち道具班は、里見八犬伝の舞台で使う小道具や衣装の制作をしています。小笠原先生の助言をいただきながら、それぞれのデザインを一から考えました。風刺の要素を加えたりしながら細部にまでこだわって作っています。より多くの方に笑顔になっていただける舞台が完成するよう、班員一同気持ちをこめて仕上げたいと思っています。



広報班

私たち広報班では、今回の公演を一人でも多くの方に観ていただこうと、様々な方面での広報を考えております。ポスターの掲示やチラシの配布に加え、特に若い世代をターゲットとした、SNS等を用いた広報を先生方にアドバイスを頂きつつ、学生主体で積極的に行っています。伝統文化を体感していただける今回の公演の魅力を存分に伝えることが出来るように、工夫して参ります。